

ULVAC Technologies, Inc. (UTECH) (社長：ウェイン・アンダーソン) は、アルバックの米国における拠点として、北米から中南米に至るまで広くカバーしている。特に、近年、新興の南米地域では、アルバックの多岐にわたる真空の応用技術がさまざまな市場と密接に関わってきている。これらの市場には、次世代メモリ及びロジックデバイス、TFB (固体薄膜電池)、太陽電池、生物医学、MEMS、LED、多機能ガラス、自動車、冷凍機 / 空調機などが含まれ、それぞれの市場に研究開発から試作、多くの場合は大量生産までの製造工程がある。UTECH は、これらの市場のニーズをいち早くキャッチし、お客様のニーズにお応えする「ULVAC」ブランドの製品を提供していくことを使命としている。今回の「拠点巡り」では UTECH を紹介する。



ULVAC Technologies, Inc.  
代表取締役社長  
ウェイン・アンダーソン



## ULVAC Technologies, Inc. (UTECH)

本社：Methuen, Massachusetts USA

### アルバックのアンテナとして、さらなる市場拡大を担う

#### 製造 / カスタマーズサポートネットワーク (北米)



#### ULVAC Technologies, Inc.

本社

- Eastern Region Sales
- Eastern Region Technical Support and Service Center
- Ashing & Etching Demonstration and Manufacturing Center



拡大する販売ネットワーク



ボストン港での社員とのクリスマスクルーズ

## はじめに

UTECH の使命を考える際、アルバックの幅広い産業分野に向けた製造事業からつくりだされるさまざまな製品群によって、どの領域をどのようにサポートするかという課題がある。幸運なことに、UTECH には幅広い製品知識を持つ勤務年数の長い社員が数多くいる。一時、UTECH には 130 人の社員がいたが、2001 年 9 月 11 日の同時多発テロ事件の後、著しく業績が悪化し、全社員数は 50% 以上減少した。現在は 55 人にスリム化したものの、以前よりも融通が利き、効率的な組織になった。例えるなら 2013 年のワールド・シリーズ・チャンピオンであるボストン・レッドソックスのように、複数のポジションを経験し、さまざまな専門技術を持った社員が組織の土台となっている。

これまで、そしてこれからも、UTECH のチームワークが成功に導いてくれると確信している。

今回の「アルバック 拠点巡り」では、UTECH 社長のウェイン・アンダーソンに UTECH の歴史、市場、経営理念及び今後の展望について話を伺った。

## UTECH の歴史

UTECH は、1992 年 3 月 31 日に、マサチューセッツ州アンドーバーに、アルバックの海外現地法人として欧米でのビジネスの拡大を目的に設立された。米国でのアルバックのルーツは次の 2 カ所の拠点にある。一つ目はメイン州ケネバンクに設立した ULVAC North America Corporation (UNAC) という会社で、主にアルバック製品のメンテナンス部品の流通のセンター的役割を果たしていた。二つ目は、マサチューセッツ州ビルリカの BTU Engineering, Inc. とアルバックとの合弁会社で、そこでは拡散炉と選択タングステン CVD 装置「ERA-1000」を開発していた。この 2 つの企業を解散して、設立されたのが UTECH である。

UTECH の設立前の 1980 年に、アルバックはコネチカット州に拠点を置く Emergent Technologies 社から、UTECH の主力製品となっている「ENVIRO」のアッシング技術を買収した。この会社は、当社アンダーソン社長の旧友でもあったディック・バーシン氏が所有していた会社であった。同社を買収した後、プロセス及び製品開発は、バーシン氏が主体となって日本で進められた。これらの経緯により、UNAC モデルのアッシング装置として主に日本で採用された。

この UNAC モデルは、最終的に UTECH に移管され、当社の製造業務の基礎となった。UNAC モデルの米国生産は、当初「組立式キット」から 100% 国内供給部品に移行し、この時に製品名を「Phoenix」とした。環境に優しい溶媒フリー処理機能をコンセプトとした同製品はその後「ENVIRO」に進化した。「ENVIRO」は 1990 年代半ばに市場で広く受け入れられ、半導体装置製造の事業拡大に貢献した。これらの製品のヒットにより、当社は 1997 年に 42,000 平方フィートの半導体専用の工場を、現在の本拠地であるマサチューセ



顧客向けサンプリングの様子 (UTECH デモルーム)

ツ州のメッシュューエンに建設した。この工場には、アッシング及びエッチング技術に対応したクラス 10/100 の実験室及びクラス 1000/10,000 のクリーン製造スペースがある。

この数年の間に、UTECH は、製品の品質向上に努め、お客様の信頼を構築し、事業を拡大してきた。同時に、社員にとってやりがいのある職場環境にも注力している。

当社の事業内容は以下に示す通りである。(1)装置及びコンポーネントの輸入製品の北米及び南米での販売・サービス、(2)アッシング装置「ENVIRO」の研究開発・製造・販売・サービス、(3)北米市場におけるアルバックのエッチング技術の創出。

## 技術のアンテナとしての UTECH

米国は常に新技術及び革新的な製品の最先端研究開発における世界の中心であり続けてきた。その中で UTECH は、有名な大学や病院があるボストンのマサチューセッツ州に戦略的に本社を置いている。UTECH の使命の一つは、マサチューセッツ州だけでなく米国やカナダで開発されている新しい技術や革新的な応用分野を見つけ出すアンテナとなることである。

近年 UTECH が成果を上げた事業開発分野としては、不揮発性メモリ技術、多機能ガラス、TFB などへの応用に成功した。これらの成功の鍵は、(1)アルバックの装置事業部とのコミュニケーションを密にしたこと、(2)アルバックの強みと技術的な優位点を生かせる応用分野に絞ったこと、(3)アルバックの技術と一致する応用分野及び技術を調査したことである。

このように UTECH は適切な応用分野にフォーカスし、かつアルバックのグローバルな技術製造力を活用することで、未来につながる事業開発に成功した。

米国内では常に新技術とその応用分野及び製品が開発され続けているため、当社のお客様の多くは、大学、研究開発センター、ベンチャー企業である。UTECH はこれらの事業分野のアンテナとして、研究開発から製造まで一貫して顧客を引き付け、関係を深め、獲得することに成功してきた。

研究開発システムのプロセスを製造システムのプロセスに移行するアルバックの技術力及び研究開発から量産までの要求に応えることでお客様の信頼を得てきた。また、お客様が

米国以外の地域、たとえば中国、台湾、東南アジア、インドに海外進出する場合でも、アルバックグループのグローバルネットワークを活かし、現地でサポートしている。

### UTECHの事業ビジョンについて

アンダーソン社長は、UTECHの事業を強化、成長させるための三つの基本的な方針について以下のように語る。

(1) 販売及びマーケティング方針：既存顧客に強力なサポートを提供し続ける一方で、新規顧客を獲得し続ける必要がある。これは直販及び代理店のリソースを組み合わせ活用して、UTECHの販売及びマーケティング組織を拡大・強化することによって達成される。

さらに、以下を含むマーケティング活動を拡大し続けていく予定である。①新しくより有益でナビゲーションが容易なWebサイトの導入、②展示会への出展増加、③製品広告の出稿の拡大——である。これらのマーケティング活動は、継続的な改善を確認するために常にモニタリングする。UTECHは、市場が低迷した場合の一点集中投資のリスクを回避するため、利益が見込まれる産業への販売及びマーケティング戦略を効果的に実施し、利益源及び顧客基盤を強化していきたい。

(2) 営業方針：最終利益の状態を強化するためには常に前進し続ける必要がある。最も大きなステップは、アッシング装置「ENVIRO」シリーズだけでなく、現在ではエッチング装置「NE-550EXa」、「NLD-570」、超コンパクトスパッタリング装置「CS-S」、自動リークテスト装置など、当社の市場にフィットする製品を国内製造することである。より多くの製品を米国内で製造することによって、同等の輸入製品よりも十分に粗利益を増やすことができる。その一方でより競争力の高い価格で製品を提供できる。この効果を最大限にするには、最高品質かつ最も望ましい価格を提供する強力なサプライヤーとの関係を維持することも重要である。

さらに、レスポンスを高め、サービス契約、スペアパー

ツ事業及び顧客トレーニングプログラムをより積極的に追及するため、カスタマーサービスの組織を強化した。その結果、お客様にとって生産性や作業性の向上につながり、UTECHにとっても財務結果が強化され、双方の利益につながった。

(3) 技術開発方針：米国は研究開発の中心であると同時に技術ベンチャー企業を育てていく環境であるため、アルバックの「アンテナ」としての役割を引き続き果たしていく。UTECHのお客様の多くが、市場投入する製品を開発しているが、非常に初期（早期）の段階にあり、市場需要の高まりに伴い世界規模での大量生産が必要になる可能性がある。たとえば、LED/OLED、パワーデバイス、太陽電池、燃料電池、TFBを含むエネルギー及び環境に関連する分野で成長が見込まれている。また半導体市場では、次世代メモリとロジックデバイスなどの成長が見込まれる。さらに自動車産業での新たな市場にも期待できる。以上のことから、いち早くお客様の研究開発から関わり、製造、販売、カスタマーサポートまでを一貫して行い、お客様が満足される生産活動をサポートすると同時に、お客様のニーズをフィードバックすることで、アルバックの新規事業の開発につなげていく。

### 今後のビジョン

米国では、停滞気味であるものの、着実な経済回復が見られる。この傾向によって、多くの米国人の購買意欲は徐々に戻ってきている。住宅、自動車、電子機器、家電などの市場動向の経済指標はすべて増加している。幸いなことに、真空の応用技術は、メモリ及びロジックデバイス、MEMSデバイス、パワーデバイス、TFB、自動車部品などさまざまな産業分野で広く普及している。経済回復と米国での製造が復活する傾向により、アルバックの製品、技術及びサービスのビジネスチャンスを活かし、引き続き事業開拓とマーケティングのキャンペーン活動を積極的に行い、UTECHのより以上の成長に拍車をかけていきたい。

## Shared Vision

### 先進技術の発信基地、米国で アルバックグループの存在意義を果たして欲しい



株式会社アルバック  
代表取締役執行役員社長  
小日向 久治

私は、1975年、弱冠25歳ながら初代駐在員としてULVAC North America Corporation (UNAC) の設立に加わったことを今も誇りに思っております。

設立直後にIBM社から世界初のコンピュータ制御蒸着装置の大型受注を頂いたことは幸運でした。そしてカナダ中央銀行からは偽札防止デバイス成膜用ロールコーター、コマック社からは磁気ディスク用インラインスパッタリング装置など世界をリードする先進的装置を次々と受注することができました。

一時期、貿易摩擦に端を発したバイアメリカン (Buy American) 運動や、2000年9月11日の同時多発テロなどで苦しい時期も経験しましたが、それを乗り越え、現在は、最先端半導体製造装置やTFB製造装置などの先進装置を提供し続けています。

米国は、昔も今も先進技術の発信基地であり、世界最大のマーケットでもあります。UTECHは、先進技術のアンテナとしてその機能を十分発揮し、アルバックグループでの存在意義を事に果たしてくれることと期待しています。